



どのタヌキもかわいくて優しい表情をしていました。

## ぽんぽこタヌキに願いを込めて

### コロナ禍退散！タヌキの置き物を作成

10年程前から、趣味として木彫りの置き物を作っている御経塚1丁目の山田さんが、コロナ禍退散の願いを込めてタヌキの置き物を作成しました。公園で拾った木材やひょうたん、ワインのコルクや消しゴムなどさまざまな材料を組み合わせてタヌキを表現。玄関に置いておくと、写真を撮っていく人がいたり、譲って欲しいと声を掛けられることもあったそうです。山田さんは「作ることが元気のもと。終息の願いを込めてこれからも作っていきたい」と話してくれました。

## 押さない走らない喋らない戻らない

### 富奥防災コミュニティセンター避難訓練

8月4日(火)、富奥公民館主催の避難訓練が富奥防災コミュニティセンターで行われました。例年は職員のみが対象でしたが、今回は初の試みとして、施設を利用する珠算教室の17人と習字教室の32人も訓練に参加。(株)ほくつと野々市消防署の協力の下、1階の調理室で火災が発生した想定で避難を行いました。

また、避難訓練後は、訓練用の水消火器を用いて消火の手順を確認。児童は「狙ったところに当てるのが難しかった。次はできると思う」と真剣な表情で話しました。



火に見立てた的に向かって放水。しっかり狙いを定めます。



平和について考える機会となることを願っています。

## 忘れてはいけないあの日・瞬間・記憶

### 原爆パネル展～平和と向き合う夏～

8月14日(金)から20日(木)まで、学びの杜ののいちカレードなどの市内各所で原爆パネル展を開催しました。これは野々市市平和都市宣言推進事業の一環として毎年行っているもので、今夏は立命館大学国際ミュージアムから借用した原爆投下後の惨状を写したパネルも展示。展示を見た男子中学生は「原爆の悲惨さを感じた。人間同士で争うのは良くない」と話しました。原爆投下から75年が経ち、被爆者の平均年齢は83歳を超えています。私たちはあの夏を風化させてはなりません。



専用のボールなどを使っていろいろな動きをします。効きそう。

## これからも楽しく笑顔で、健康に

### スポーツサークル「アクアビクス2000」創立20周年

スポーツランドプールで、水中エアロビクスを行っているサークル「アクアビクス2000」が平成12年(2000年)の発足から今年で20周年を迎えました。

町(当時)が開催した体験教室の受講生が中心となりグループを結成、現在は女性約20人で活動を行っています。代表の北川さんは「水の浮力を利用するので、体への負担が少なく運動することができます。これからも仲間と一緒に、元気に活動を続けていきたいです」と今後の意気込みを語りました。

# まちの話題 FOCUS

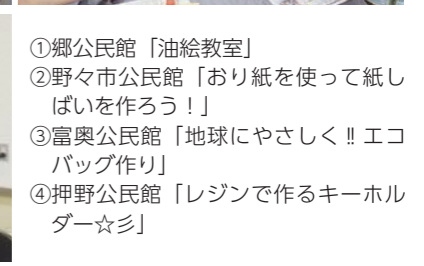
皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。  
市民協働課 ☎227-6056

## 地域の大人と夏にチャレンジ！

### 学びのサポーターとつくる夏休み体験

専門的な知識や技能、経験を持った地域の先生「学びのサポーター」と、小学生と一緒にさまざまな体験をするイベント「学びのサポーターとつくる夏休み体験」が野々市・富奥・郷・押野の地区公民館で開催されました。計10講座約200人が参加。学びのサポーターを講師とした科学実験教室や、新聞紙を使ったエコバック作りなどいろいろな活動に挑戦しました。

郷公民館の油絵教室に参加した御園小学校6年生の三田さんは「学校で習った水彩画と違って、水を使わない書き方に驚きました。初めての経験だったのでとても楽しかったです。完成した絵は玄関に飾りたいです。」と話してくれました。地域の先生との時間が、特別な経験になったようでした。



- ①郷公民館「油絵教室」
- ②野々市公民館「おり紙を使って紙しばいを作ろう！」
- ③富奥公民館「地球にやさしく!!エコバック作り」
- ④押野公民館「レジンで作るキーホルダー☆」



いろいろな絵本や紙芝居を参考に、見せ方や展開を話し合います。

## まだまだヤーコンは抜けません！

### オリジナル大型絵本『大きなヤーコン』制作

7月29日(水)、中央児童館カーネーションクラブが大型絵本『大きなヤーコン』制作のために集まりました。普段は中央児童館イベントへの協力などを行っている皆さん。現在は中央児童館がイベント自粛中のため、今出来ることを話し合い、大型絵本の制作を決めました。絵本は、『大きなカブ』のストーリーを基に、市の特産品であるヤーコンをのっぴたちが協力して収穫するというお話。完成後は児童館や保育園で読み聞かせを予定しています。

## 加州建設が除草清掃ボランティア アダプトプログラム調印式

8月4日(火)、加州建設(株)と市との公共施設管理ボランティア支援(アダプトプログラム)事業調印式がありました。これは参加者が市道などの里親となり維持管理を行う制度で、今後二日市や三日市地内の市道約460mにおいて、春と秋の年2回除草清掃ボランティアを行います。市長は「市民が末長くこの道路を快適に使っていただけるように協力してください」とあいさつしました。今回の調印により、市のアダプトプログラム登録団体は計46団体、のべ937人となりました。



市長と握手を交わす島田社長(写真中央)と小堀会長(写真左)